第10章　商品売買②

10－1　付随費用（三分法）

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　付随費用は、商品の取得原価に含めること！

②　三分法では「仕入」勘定で処理する。

主な勘定科目

「仕入」勘定（費用）

商品を仕入れる時には商品を移動させるため、様々な費用がかかります。これを諸掛り（しょがかり）といいます。諸掛りとしては、発送費（送料）、運賃、荷役費（にやくひ）、保険料、購入手数料、関税などがあります。

仕入に関する諸掛りは**付随費用**（ふずいひよう）なので、有価証券や固定資産と同様に、商品の取得原価に含めますので、「仕入」勘定（費用）で処理します。取得原価とは購入代価に付随費用を加算した金額です。

取得原価 ＝ 購入代価 ＋ 付随費用

例題10－1　商品800円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取費用50円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**850**	**買掛金**	**800**
		現金	**50**

仕入：購入代価800＋付随費用50＝850

10－２　返品・値引（三分法）

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　**返品と値引の違いを理解しよう！**

②　**返品と値引の仕訳をマスターしよう！**

主な勘定科目

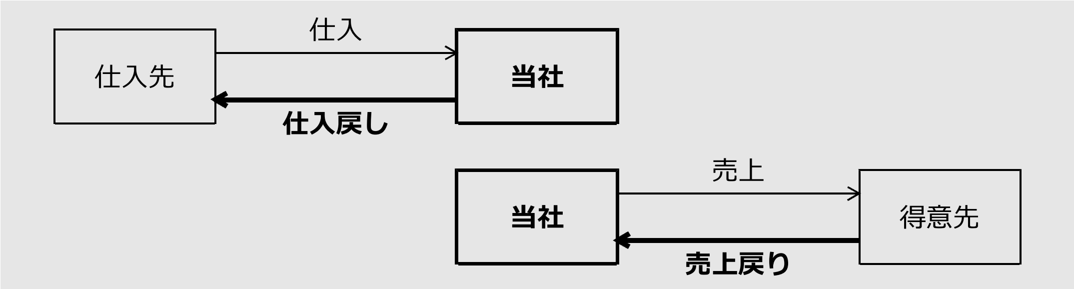
①　**仕入戻し・仕入値引：「仕入」勘定（費用）**

②　**売上戻り・売上値引：「売上」勘定（収益）**

（1）返品

商品の品違いや品質不良、傷、汚れなどを理由に商品を仕入先に戻したり、得意先から戻ってくることを**返品**（へんぴん）といいます。仕入れた商品を返品することを**仕入戻し**（しいれもどし）、売り上げた商品が返品されることを**売上戻り**（うりあげもどり）といいます。

返品は仕入や売上がなかったことと同じですので、仕入時や売上時の仕訳を取り消す処理を行います。



① 仕入戻し

仕入れた商品を返品した場合、仕入がなかったことになるため、「仕入」勘定（費用）の減少として処理します。

例題10－2 **仕入先から掛仕入した商品100円を品違いのため返品した。**

仕入時に以下の仕訳を行っています。

仕　　　　入　　100 / 買　掛　金　　100

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**100**	**仕入**	**100**

これにより、仕入はなかったことになります。

② 売上戻り

売り上げた商品が返品された場合、売上がなかったことになるため、「売上」勘定（収益）の減少として処理します。

例題10－3 **得意先へ掛売上した商品120円（仕入原価100円）が品違いのため返品された。**

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　　120 / 売　　　　上　　120

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上	**120**	**売掛金**	**120**

これにより、売上はなかったことになります。

（2）値引

商品の数や量の不足、品質不良、傷、汚れなどを理由に商品の代金を安くしてもらうことを**値引**といいます。仕入れた商品の値引を**仕入値引**（しいれねびき）、売り上げた商品の値引を**売上値引**（うりあげねびき）といいます。値引は傷などが返品するほどでなく、その代わりに代金を安くしてもらうことですので、返品と違って商品を送り返すことはありません（商品は移動しません）。

値引があると、当初の仕入価額や売上金額より安くなったことになるので、「仕入」勘定（費用）や「売上」勘定（収益）を減少する処理を行います。

① 仕入値引

仕入れた商品について値引を受けた場合、当初より仕入が安くなりますので、「仕入」勘定（費用）の減少として処理します。

例題10－4　仕入先から掛仕入した商品100円に傷があったので値引10円を受けた。

仕入時に以下の仕訳を行っています。

仕　入　100 / 買掛金　100

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**10**	**仕入**	**10**

これにより、90円で商品を仕入れたことになります。

② 売上値引

売り上げた商品について値引を行った場合、当初より売上が安くなりますので、「売上」勘定（収益）の減少として処理します。

例題10－5　得意先へ掛売上した商品220円（仕入原価150円）に傷があったので値引10円を行った。

売上時に以下の仕訳を行っています。

売掛金　220 / 売　上　220

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上	**10**	**売掛金**	**10**

これにより、210円で商品を売り上げたことになります。

10－３　商品券

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　**商品券勘定は「負債」であることを理解しよう！**

②　**仕訳をマスターしよう！**

主な勘定科目

「商品券」勘定（負債）

デパートなどが発行する商品券は、贈答用など販売促進を目的として発行しています。商品券を受け取った人は、将来、商品券と引き替えに商品を買うことができます。一方、商品券を発行した側は、将来、商品券と引き替えに商品を引き渡す義務があります。そこで、商品券を発行した場合には、「**商品券**」勘定（**負債**）で処理します。

① 商品券の発行時

将来、商品を引き渡す義務を「商品券」勘定（負債）の増加として処理します。なお、商品券を販売することが目的でなく、商品を販売することが目的なので、商品券を発行した時には売上を計上しないことに注意して下さい。

例題10－6 **商品券1,000円を発行し、現金を受け取った。**

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
現 金	**1,000**	**商 品 券**	**1,000**

② 当店が発行した商品券を受け取った時

商品を引き渡す義務が減少しましたので「商品券」勘定（負債）の減少として処理します。なお、商品を販売（引渡）した時に売上を計上します。

例題10－7 **商品1,200円を売り上げ、代金は当店発行の商品券1,000円と現金200円を受け取った。**

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
商 品 券	**1,000**	**売 上**	**1,200**
現 金	**200**		

第10章　商品売買②　問題

問題10-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　商品30,000円を仕入れ、代金は小切手で支払った。なお、運送業者へ送料1,000円を現金で支払った。

②　以前に得意先へ掛け売り上げした商品60,000円のうち、5,000円が品違いのため返品された。なお、返品に伴い、掛代金を減額した。

③　以前に仕入先から掛け仕入れした商品40,000円について、汚損があったため1,500円の値引を受けた。なお、値引に伴い、掛代金が減額された。

④　商品65,000円を売り上げ、代金のうち42,000円は当店発行の商品券で、残額は現金で受け取った。

第10章　商品売買②　答案用紙

問題10-1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				

第10章　商品売買②　解答解説

問題10-1　**解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	仕入	31,000	当座預金	30,000
			現金	1,000
②	売上	5,000	売掛金	5,000
③	買掛金	1,500	仕入	1,500
④	商品券	42,000	売上	65,000
	現金	23,000		

問題10-1　**解説**

①　仕入諸掛は商品の取得原価に含めますので、「仕入」勘定（費用）で処理します。

②　売上戻りは「売上」勘定（収益）の減少として処理します。

③　仕入値引は「仕入」勘定（費用）の減少として処理します。

④　当店発行の商品券を受け取った場合、「商品券」勘定（負債）の減少として処理します。